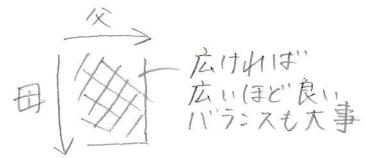


日本の母の文化

父 - 一切断 良いことをする → ほめる
 悪いことをする → 罰する
 母 - 包み込む、許す



教育原論リアクション (第4回、2018年5月11日) 学校について考える

1 前回リアクション (4月27日) を読んでの感想

国によってしつけ方の違いがあり、それによって環境も変化していくことで、入格も国それぞれになり、国際問題も発生すると思う。

2 学校はどのような理由で作られたのか (学校の起源)? (公教育; 西洋&日本の学校の成り立ちをテキスト 14~18 頁から読み取る)

キリスト教

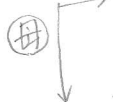
「コメンテウス」教育思想家

西洋の教育が日本に入ってくる (西洋が基盤)

※戦争は社会の為の教育だった

→ 子どもの成長が国家のために

母 > 父



= 日本も 母の文化が強い

すべての子どもに学校教育を (公教育) → 子どもの成長 + 社会の為 (国家)

「コンドルセ」

権力の排除、平等

「テューイ」 → 日本の教育にも関係

義務教育、教科書 明治から無償化

3 家庭と学校の違いは何か (プリント①参照)

母親的

(A) 家庭

(B) 学校

父親的 → 社会

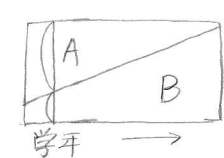
女なのか 男なのか
 自分との つまみつき
 何かをしながら
 知られたいだけ
 知られたいだけ
 何かにまみれながら
 知られたいだけ
 何かにまみれながら
 知られたいだけ

- 属性 (へである)
- 個性主義
- 拡張性
- 感情性
- 取替不可

- 業績 (へする)
- 普遍主義 ひいきない
- 限定性
- 感情的中
- 取替可能

何が出来るか
 ひいきない
 先生は機能ではない

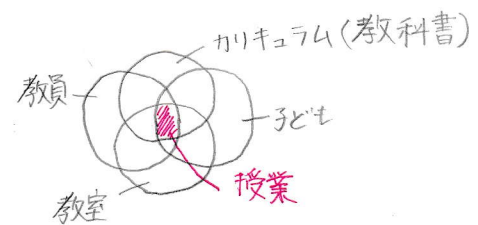
⇒ 家庭と学校の違いを知る
 学校に行くことにより
 文化 (価値、規範) を知り
 家庭の大切さなども知ることが出来る。



4 学校の教科で教えらるる内容の特質は何か (プリント② 教科内容 参照)

- ① 口豆貝によるものお書かれたものが重視される (Literacy) → 何れも試験がペーパーテスト
- ② 教育内容は日常生活からかけ離れた抽象的なもの (Abstractness) → 自分の興味のみのことも教えられ
- ③ 子どもが有している知識とは関係がないことが教えらるる (Unrelatedness)
- ④ 学習は個人作業が主となり、個人単位で成績評価がなされている (Individualism) → 個人の学力
- 5 隠れたカリキュラムとは何か (プリント⑤ 隠れたカリキュラム、テキスト 94-95 頁参照)

子どもたちは、授業以外で
 いろいろなことを学んでいる
 [隠れたカリキュラム]
 (学校や授業などで
 学校だけでさまざまなことを学ぶ)



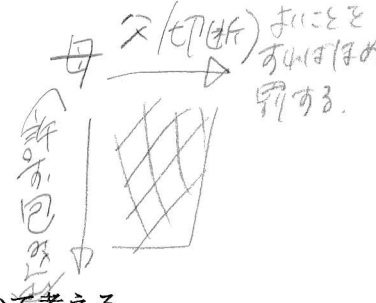
6 学校の教師と児童・生徒の関係は、どのようなものか。どのような問題があるか (プリント⑥ 教師-生徒関係 参照)

- ・ 教師と児童・生徒の関係 → 上下関係を学ぶ
- ・ 授業に耐える → 社会への忍耐力がつか
- ・ 校則・規則 → 法律を守るようになる

学校と社会の関係

7 他の人からコメントをもらう。

- (喜多見) → (きれいにまとまっている。◎)
- (赤星) → (ありがたいです。きれいな資料ありがとうございます)



教育原論リアクション (第4回 2018年5月11日) 学校について考える

1 前回リアクション (4月27日) を読んでの感想

細かく様々な視点からとらえていてすごいと思った。
空白がなけるくらい書いて素晴らしいです。

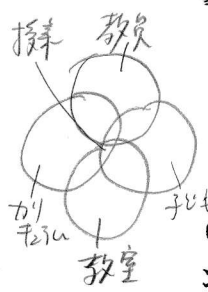
2 学校はどのような理由で作られたのか (学校の起源)? (公教育; 西洋&日本の学校の成り立ちをテキスト 14~18 頁から読み取る)

「コメニウス」すべての子どもに学校教育を(公教育)
子どもの成長+社会の為(国家)+国家の為(戦前はなかった)
貧富の差を、すべての子どもの為は無償で、「コンドルセ」権力の排除 平等 「ギョーイ」

3 家庭と学校の違いは何か (プリント①参照)

家庭	学校
属性	業績
個性	(必ず)
(自由)	苦痛主義
(自由)	(自由)
拡張性	限定性
感性的	感性的
中立性	中立性
取り換え	取り換え
不可能	可能
	(機能)

- ① 家庭は性別、出生順位など子どもの属性が重視されているが、学校は成績や態度、道徳という業績が重視されている。
 - ② 家庭は自分だけ可愛がってもらえるが、学校では平等に扱われる。
 - ③ 家庭では様々なことができたが、学校では1つのことに集中する。
 - ④ 家庭では自分の感情のままだが、学校では周りの人もいるので理性的な振舞いが求められる。
 - ⑤ 家庭では親という何にも変えられない存在がいるが、学校では学年ごと先生が変わる。
- 4 学校の教科で教えらるる内容の特質は何か (プリント② 教科内容 参照)
- ① 口頭によるものよりも書かれたものが重視される
 - ② 教育内容は日常生活からかけ離れた抽象的なもの
 - ③ 子どもが有している知識とは関係がないことが教えられる
 - ④ 学習が個人作業が主となり、個人単位で成績評価が行われる。
- 5 隠れたカリキュラムとは何か (プリント⑤ 隠れたカリキュラム、テキスト 94-95 頁参照、)



学校や教師が意図的に行っているわけではなく、知らず知らずの影響を与えているもの。
「退屈な授業に耐える」として、社会に出てから、毎日繰り返しの「退屈な仕事に耐える」ことに結びつく。知らず知らずのうちに教育し、株の大人、職業人を育てているのである。

6 学校の教師と児童・生徒の関係は、どのようなものか。どのような問題があるか (プリント⑥ 教師-生徒関係 参照)

教師からの評価は子どもにとって大切で、自分に対する自信を高めたり低めたりする。
教師は無意識のうちに成績の上位者をひいてしまっている。
教師側がさまざまな子どもに合わせることを求められている。

7 他の人からコメントをもらう。

(加藤) → (ぎっしり)書かれている。先生の話をちゃんと聞いている! えらいぞ!!
(網中) → (メモや黒板に書かれていることを全部書いてあってすごい!)